



competency

AWS 小売コンピテンシー

コンサルティングパートナー検証チェックリスト

2019 年 12 月
バージョン 1.0



本文書は情報提供のみを目的とし、AWS から何らかの提供、契約義務、約束、保証を付与するものではありません。ここに述べる恩恵は AWS の独自の裁量によるもので、事前の通知なく変更または停止されることがあります。本文書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

目次

はじめに	3
当事者に求められること	3
AWS 小売コンピテンシープログラムの前提条件	4
AWS 小売コンサルティングパートナー検証チェックリスト	6
1.0 小売プラクティスの概要	7
2.0 導入事例要件	7

はじめに

AWS コンピテンシープログラムの目標は、専門的なソリューション分野で習熟した技術と顧客を成功に導いた実績を持つ AWS パートナーネットワークパートナー（「APN パートナー」）を認定することにあります。コンピテンシーパートナー審査チェックリスト（「チェックリスト」）は、AWS コンピテンシーへの申し込みを希望する APN パートナーを対象としています。このチェックリストでは、AWS コンピテンシープログラムの認定基準を示しています。APN パートナーは特定のコンピテンシーに申請する際に、その能力の審査を受けることとなります。AWS は、この審査を円滑に行うために社内の専門家と外部企業を活用します。AWS はこのドキュメントを随時変更する権利を有します。

当事者に求められること

APN パートナーは、前提条件をすべて満たしている場合であっても、AWS コンピテンシープログラムに申請する申請書を提出する前に、このドキュメントを熟読する必要があります。このドキュメントについて不明点がある場合や詳しい説明が必要な場合は、まず AWS パートナー開発担当者（「PDR」）または AWS パートナー開発マネージャー（「PDM」）にお問い合わせください。さらにサポートが必要な場合は、PDR/PDM がプログラム事務局に連絡します。

APN パートナーはプログラムの申込書を提出する準備が整ったら、このドキュメントの以下に記載されているチェックリストの「パートナー自己診断」表に必要な事項を記入する必要があります。

申込書の送信方法

1. APN パートナーセントラル (<https://partnercentral.awspartner.com/>) にアライアンスリードとしてログインします。
2. ページの左側で [View My APN Account] を選択します。
3. [Program Details] セクションまでスクロールします。
4. 申し込みたいと考えている AWS コンピテンシーの横にある [Update] を選択します。
5. プログラム申込書に必要な事項を入力して [Submit] をクリックします。
6. 必要事項を入力した自己評価を E メールで competency-checklist@amazon.com に送信します。
- 7.

上記の手順に関して質問がある場合は、PDR/PDM にお問い合わせください。

AWS は、可能な限り 5 営業日以内に審査スケジュールの開始や追加情報のリクエストを行い、質問があればあわせて回答します。

APN パートナーは、事前に検証チェックリストを読み、チェックリストを使用して自己評価を実施し、審査日に審査員に示す客観的な証拠資料を集めて整理し、審査に備えてください。

AWS では、APN パートナーが審査時に要件について詳しく述べることでできる担当者を決めておくことをお勧めします。APN パートナーにとっては、審査には高度な技術を持つ AWS 認定エンジニア/設計者を 1 名以上、運用およびサポート機能の責任者である運用担当者、概要説明を行う事業開発エグゼクティブを指名し同席できるようにしておくことがベストプラクティスです。

AWS 小売コンピテンシープログラムの前提条件

AWS 小売コンピテンシーパートナーは、小売バリューチェーン全体にわたるソリューションの構築において優れた実績を収めています。AWS 小売コンピテンシーパートナーは、カスタマーエンゲージメント、企業商品と計画、サプライチェーンと流通、実店舗とデジタルストアおよび仮想ストア、高度な小売データサイエンス、およびコアとなる小売ビジネスアプリケーションといったコアビジネステナントで革新的なクラウドベースのソリューションを構築します。

垂直 AWS コンピテンシーは、AWS のセグメント固有のソリューションとプラクティスを保有する APN パートナー向けに設計されています。これらは、特定のマーケットセグメントに焦点を当てた広範な専門知識と経験を持つ専門の APN パートナーです。業界固有の課題に対する高度にターゲットを絞ったソリューションと、独自のセグメントドメイン知識を提供するコンサルティングプラクティスを保有する APN パートナーは、垂直 AWS コンピテンシーを追求するのに最適な立場にあります。

次の項目は、AWS コンピテンシープログラムマネージャーにより検証されます。検証レビューをスケジュールする前に、不足している情報や不完全な情報に対処しておく必要があります。

1.0 APN プログラム要件		適合の有無
1.1 プログラムガイドライン	APN パートナーは、AWS 小売コンピテンシープログラムに申し込む前に、AWS コンピテンシープログラムのガイドラインと定義を読む必要があります。 AWS コンピテンシープログラムのガイドラインについては、ここをクリックしてください	
1.2 コンサルティングパートナー階層	APN パートナーは、小売コンピテンシープログラムに申請する以前の時点でアドバンストまたはプレミア APN コンサルティングパートナーである必要があります。	
2.0 AWS のお客様導入事例		適合の有無
2.1 小売特有のお客様導入事例	<p>APN パートナーは、上記のコアビジネステナントにおいて、AWS で完了した小売業界プロジェクトに固有の 4 つの一意のお客様導入事例を保有しており、4 つの導入事例のうち 2 つを公開する必要があります。</p> <p>お客様導入事例は、パイロットや開発、PoC (概念実証) 段階ではなく、本番プロジェクトのものである必要があります。お客様導入事例は、小売業の顧客向けの IT に関する一般的な問題ではなく、小売業の基幹業務に関する課題 (AWS により定義) を解決するものである必要があります。4 つのお客様導入事例にはそれぞれ、以下の情報が示されている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客の名前 顧客のウェブサイトアドレス 顧客が直面する問題の説明/定義 顧客が直面する問題を解決するために提案した内容 ソリューションの一部として AWS のサービスをどのように使用したか 	

	<ul style="list-style-type: none"> APN パートナーの小売ドメインの知識がソリューションの一部としてどのように使用されたか 使用したサードパーティ製のアプリケーションまたはソリューション プロジェクトの完了は過去 18 か月以内である必要があります 成果と結果 <p>少なくとも 2 つの導入事例には、顧客の説明に従ってコンプライアンスのニーズを組み込む必要があります。</p> <p>お客様導入事例は、小売ソリューションに関する全般、および特に AWS での専門知識を実証するためのものです。お客様導入事例では、他にはない価値提案に重点を置き、AWS で実行されている APN パートナーソリューションの優れた統合事例に注目する必要があります。この情報はパートナーセントラルプログラムへの申し込みプロセスで必要になります。</p>	
<p>2.2 公開導入事例</p>	<p>2.2.1 4 つの AWS のお客様導入事例のうちの 2 つは公開する必要があります。証拠は、公開可能な導入事例、ホワイトペーパー、ブログ投稿のいずれかの形式で提示する必要があります。</p> <p>注意: 承諾される公開導入事例の書き方のベストプラクティスについては、こちらを参照してください</p> <p>2.2.2 公開導入事例は、APN パートナーのホームページのリンクから導入事例に移動できるようにするなど、APN パートナーのウェブサイトからの閲覧が容易である必要があります。</p>	
<p>2.3 デリバリーカテゴリ</p>	<p>各導入事例は、次のデリバリーカテゴリのいずれかに分類される必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> MSP – APN パートナーは、顧客の AWS 環境に継続的にアクセスし、継続的な運用活動に責任を持ちます。 プロジェクトベース – APN パートナーは、顧客が管理および運営する小売ビジネスソリューションを構築し提供しました。このカテゴリには、APN パートナーが継続的な運用とメンテナンスのために AWS アカウントのすべての所有権を顧客に譲渡したワークロードの移行が含まれます。 	
<p>2.4 マネージドサービスプロバイダーの要件</p>	<p>提出された導入事例のいずれかが MSP デリバリーカテゴリに該当する場合、APN パートナーは AWS マネージドサービスプロバイダー (MSP) プログラムのメンバーである必要があります。</p>	
<p>3.0 AWS 小売プラクティスとフォーカス</p>		<p>適合の有無</p>
<p>3.1 APN パートナープラクティスのマイクロサイト</p>	<p>AWS のお客様は、AWS での小売ソリューションの開発と提供に関する専門知識を求めています。したがって、AWS 小売プラクティス特有のウェブページのレイアウトを含む APN パートナーのインターネットプレゼンスは、APN パートナーの小売業に関する経験と能力を顧客に示すのに役立ちます。</p> <p>APN パートナーはマイクロサイトを設置し、AWS 小売プラクティス、AWS ソリューションと AWS コンピテンシーのユースケース、テクノロジーソリューション、AWS のお客様導入事例へのリンク、小売に関連した APN パートナーの専門知識の根拠および AWS サービスの使用を明示する情報を提供する必要があります。</p>	

	<p>小売プラクティスのマイクロサイトは、APN パートナーのホームページからアクセスできる必要があります。APN パートナーが小売コンサルティングに特化した企業であり、ホームページに同社が小売に特化することを示していない限り、そのホームページはプラクティスページとは見なされません。</p> <p>注意: 要件を満たす APN パートナーのプラクティスランディングページを構築する方法のベストプラクティスについては、こちらを参照してください</p>	
<p>3.2 小売に関するソートリーダーシップ</p>	<p>AWS 小売コンピテンシーパートナーは、AWS のサービスを活用する革新的なソリューションの開発など、小売業に関する深い専門知識を持っています。</p> <p>具体的には、APN パートナーはプロセス、垂直型に特化したユースケース、アンチパターンについて顧客に伝達、教育する能力があることを示す証拠を提出する必要があります。</p> <p>APN パートナーは、小売における重点的な取り組みと専門知識を示す資料（ブログ投稿、プレス記事、動画など）を一般公開する必要があります。お客様に対するワークショップ/教育や垂直型のユースケースの説明事例を掲載した資料のリンク（過去 12 か月以内に公開されたもの）を提供する必要があります。</p>	
<p>4.0 APN パートナー自己診断</p>		<p>適合の有無</p>
<p>4.1 AWS コンピテンシーパートナープログラム検証チェックリストの自己評価</p>	<p>APN パートナーは、AWS 小売コンサルティングパートナー検証チェックリストの要件への準拠について、自己診断を実施するものとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> APN パートナーは、チェックリストのすべてのセクションに記入する必要があります。 自己診断に必要な事項を記入したら、件名を "[APN パートナー名], Retail Competency Consulting Partner Completed Self-Assessment" として、competency-checklist@amazon.com に E メールで送信します。 APN パートナーは記入した自己評価を AWS に提出する前に、ソリューションアーキテクトまたは AWS パートナー開発マネージャー (PDM) に確認してもらうことをお勧めします。APN パートナーの AWS チームが関わることで審査前にアドバイスをもらえるようにし、審査を建設的なものにするのがその目的です。 	

AWS 小売コンサルティングパートナー検証チェックリスト

検証プロセスの準備において、APN パートナーはこのチェックリストに記載されている項目をよく理解し、それぞれの導入事例に含まれる、各項目に必要な詳細で客観的な証拠を提供する必要があります。APN パートナーは、前提条件プロセスの一環として提出した 4 つの導入事例に限定されるものではありませんが、選択したケーススタディが、検証中に使用される AWS 小売導入事例の最小許容基準をどのように満たすかを説明できるように準備しておく必要があります。

AWS コンピテンシープログラムは [AWS Well-Architected フレームワーク](#)を指針としています。

1.0 小売プラクティスの概要		適合の有無
1.1 顧客へのプレゼンテーション	<p>APN パートナーは、顧客との面談の前段階として、自社の AWS 小売プラクティスを説明する会社概要プレゼンテーションを行い、APN パートナーとしてのデモ能力を証明します。</p> <p>プレゼンテーションには、AWS に特有の差別化要素 (AWS を活用することによってのみ実施できる APN パートナー独自の小売プラクティス等) など、自社の AWS 小売プラクティスについての情報を盛り込みます。</p> <p>概要のプレゼンテーションには以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 会社の沿革 ▪ オフィスの所在地 ▪ 従業員数 ▪ お客様の数、規模、業界といったプロフィール ▪ AWS 小売プラクティスの概要 <p>証拠は、検証セッションの開始時に、事業開発の幹部がプレゼンテーション形式で提示する必要があります。制限時間は 15 分です。</p>	
1.2 AWS の専門知識の維持	<p>APN パートナーは、AWS 小売プラクティスに関する AWS サービスのリリースについて最新情報に精通していることを説明する場合があります。</p> <p>証拠は、APN パートナーが AWS のサービスと機能を最新の状態に保ち、最新の状態を維持するために従業員に提供する Well-Architected フレームワークの定期的なレビューなどといったトレーニングプログラムを最新の状態に保つために活用するイネーブルメント資料に関する口頭での説明形式である必要があります。</p>	
2.0 導入事例要件		適合の有無
2.1 ユースケース	<p>提出されるすべての導入事例は、小売業の特定の問題に関するものである必要があります。具体的には、カスタマーエンゲージメント管理、企業商品と計画、サプライチェーンと流通の管理あるいは分析、実店舗とデジタルストアおよび仮想ストアソリューション、高度な小売データサイエンス、コアとなる小売ビジネスアプリケーションが含まれます。</p>	
2.2 デプロイのオートメーション	<p>APN パートナーは、環境内でコードとインフラストラクチャコンポーネントをデプロイする自動化された方法を使用します。インタラクティブ Secure Shell (SSH) または Remote Desktop Protocol (RDP) セッションを使用して AWS インフラストラクチャに更新をデプロイすることはできません。また、AWS リソースのすべてのプロビジョニングと変更は、AWS CloudFormation や Terraform などのプログラムによるメカニズムを通じて行う必要があります。</p> <p>証拠は、すべてのプロジェクトベースの導入事例のインフラストラクチャとアプリケーションコンポーネントの両方の自動デプロイメカニズムの説明形式である必要があります。</p>	
2.3 定義された可用性要件	<p>APN パートナーは、単一のアベイラビリティゾーンが失われた場合の目標復旧時間 (RTO) と目標復旧時点 (RPO) を定義する必要があります。</p>	

	<p>証拠は、すべてのプロジェクトベースの導入事例のソリューションの各コンポーネントの RTO および RPO の記述形式でなければなりません。</p>	
<p>2.4 AWS アベイラビリティゾーンの回復力とテスト</p>	<p>APN パートナーは、単一のアベイラビリティゾーン (AZ) の損失に対して回復力のあるソリューションを設計します。フェイルオーバーの管理に使用されるメカニズムは、2.2 で定義された RTO および RPO 要件を満たしている必要があります。</p> <p>証拠は、すべてのプロジェクトベースの導入事例のアーキテクチャ図と、フェイルオーバーメカニズム、およびそれらのメカニズムを検証するためのテストの説明の形式である必要があります。</p>	
<p>2.5 災害対策の計画とテスト</p>	<p>APN パートナーには、AWS リージョンの機能停止が継続した場合に構築するソリューション向けの災害対策の計画の経験があります。APN パートナーは、災害対策 (DR) プロセス、目標復旧時間と目標復旧時点 (RTO/RPO)、および計画を検証するために行われたテストについて説明できます。</p> <p>証拠には、提出された少なくとも 1 つの導入事例に以下の項目が含まれている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AWS リージョンの機能停止が発生した場合の RTO/RPO の説明 • 進行中のデータレプリケーションおよび災害復旧プロセスの両方のアーキテクチャ図と関連する説明 • エンゲージメントの完了前に実行された DR テストの説明 • エンゲージメント成果物の一部として DR 計画を実行するためのドキュメントが顧客に提供されたことの証明 	
<p>2.6 ランブック</p>	<p>APN パートナーは、日常の運用業務と問題解決のガイダンスを説明するランブックやその他のドキュメントを顧客に提供します。</p> <p>証拠は、通常顧客に提供されるものを代表するサンプルのランブックの形式で、これらのドキュメントがすべてのプロジェクトベースの導入事例のエンゲージメント成果物に含まれていることを証明する必要があります。</p>	
<p>2.7 パフォーマンスと状態のモニタリング</p>	<p>APN パートナーは、ソリューションのパフォーマンスと運用状況をモニタリングするツールとメカニズムを実装します。</p> <p>証拠は、パフォーマンスと状態のモニタリングに使用されるツールの説明と、プロジェクトベースのすべての導入事例のパフォーマンスおよびヘルスデータの収集方法を説明するアーキテクチャ図の形式である必要があります。</p>	
<p>2.8 AWS ルートアカウントの使用</p>	<p>APN パートナーは、最初のアカウントの作成と設定以外のアクティビティにルートアカウントを使用しません。パートナーが新しいアカウントのプロビジョニングを担当する場合は、受信後にルート資格情報を提供し、それらの資格情報をローテーションする手順を顧客に提供する必要があります。パートナーは、アカウントの初期化中に使用されたルートアカウント資格情報のコピーも破棄する必要があります。</p> <p>証拠は、プロジェクトベースのすべての導入事例で顧客の AWS アカウントとやり取りするためにパートナーが使用する AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルの説明形式である必要があります。APN パートナーがお客様に代わってアカウントを作成した場合、IAM プリンシパルの初期化とルート認証情報の所有権の譲渡に使用されるプロセスについて説明しなくてはなりません。</p>	

2.9 IAM ポリシー	<p>APN パートナーは、IAM プリンシパル (人間のユーザーとシステムユーザーの両方) に付与する正しい権限を決定するための確立されたプロセスを所有しています。</p> <p>証拠は、IAM ポリシーの作成とレビューに使用されるプロセスの説明形式である必要があります。</p>
2.10 Amazon Simple Storage (S3) バケットアクセス制御	<p>APN パートナーは、エンゲージメントの過程で作成された Amazon S3 バケットへのアクセスを制御し、最小権限の原則に従ってアクセスを制限するための適切な制御が行われていることを確認します。また、Amazon S3 バケットがパブリックになった時点で、それを識別する モニタリング または アラート を有効化します。</p> <p>証拠は、各 Amazon S3 バケットのアクセス要件と、必要なポリシーを実施するために使用されるアクセス制御、モニタリング、アラートメカニズムの説明の形式である必要があります。</p>
2.11 データの暗号化	<p>顧客によって機密情報と分類されたデータは、保管時および転送時に暗号化される必要があります。</p> <p>証拠は、提出されたすべての導入事例で機密情報として分類されるすべてのデータに使用されるデータ暗号化メカニズムの説明形式である必要があります。</p>
2.12 PCI-DSS ネットワークのセグメント化	<p>カード所有者データが存在する e コマース実装では、APN パートナーはワークロードを分離したネットワークアーキテクチャを採用しており、ファイアウォールを使用して、ほかの顧客ワークロードからのカード所有者データを処理、保存します。</p> <p>証拠は、提出された各 e コマース導入事例に関する Amazon Virtual Private Cloud (VPC)、サブネット、セキュリティグループなどのさまざまなネットワーク構成を示すアーキテクチャ図の形式である必要があります。</p>
2.13 PCI-DSS – 脆弱性スキャンと侵入テスト	<p>e コマース実装の場合、APN パートナーは、四半期ごとに脆弱性スキャンと侵入テストを実行する手段を実装しています。</p> <p>証拠は、提出された各 e コマース導入事例の実装の説明の形式である必要があります。</p>

AWS リソース

タイトル	説明
AWS コンピテンシーマイクロサイトを構築する方法	<p>AWS コンピテンシープログラムのビジネス要件を満たすコンサルティングプラクティスまたはテクノロジーソリューションページの作成方法に関するガイダンスを提供します。</p>
公開導入事例を構築する方法	<p>AWS コンピテンシープログラムのビジネス要件を満たす公開導入事例の構築方法に関するガイダンスを提供します。</p>

アーキテクチャ図を構築する方法	AWS コンピテンシープログラムの技術要件を満たす AWS アーキテクチャ図の構築方法に関するガイダンスを提供します。
AWS コンピテンシー準備チェックリスト	AWS コンピテンシープログラムの付随資料のガイダンスとベストプラクティスの例を提供します。

AWS は、AWS コンピテンシープログラムに対し随時変更を加える権利を留保し、APN パートナーが AWS コンピテンシーの資格を満たしているかどうかを独自の裁量で判断します。